

雑木林だより

第11号（2019年2月発行）

編集・発行：NPO法人北本雑木林の会広報部

連絡先：080-5697-6241

北本雑木林

検索

デーノタメ遺跡を北本のシンボルに！

北本市立南小学校から北本団地へむかっていくとまもなく団地の棟々が見えてきます。

約50年前まで、北本団地のあたりは低地でしたが、南側は台地が広がり今も雑木林や竹林となつて残っています。その大地の下に5000年も昔の縄文時代の人々の暮らしの痕跡が眠っているなんて誰が想像できたでしょうか？全く奇跡としか考えられません。台地と低地の境には泉があり、デーノタメと呼ばれていたそうで遺跡の名前の由来となりました。デーノタメ遺跡は5000年前の縄文時代中期から後期の1200年に亘り人々が暮らしていた痕跡です。特に低湿地からは漆塗り土器や多くの木の実などが発掘されており、5000年前の縄文人の暮らしが長い時を越えて生き生きと現代に蘇ってくるようです。

ところが北本市は今から60年も前の計画のまま、デーノタメ遺跡の真ん中を18メートル幅の道路を通し、その両側に住宅地と公園をつくる計画をすすめています。しかし経済成長期は過ぎ去って久しく、北本に限らず人口は減り続けています。市内の空き家も1000戸を数え、さらに増えていくことは避けようがありません。既に住宅もアパートも充分足りているのではないのでしょうか？その証拠に新築住宅の前にはブライズダウンの看板をあちこちで見られるようになりました。昨日は、まさかの「800万円ダウン」の看板を見ました。驚きです。でも現実なのです。このまま住宅を建て続けて「新築空き家」を増やすことにならないかと心配です。しかも開発にはインフラ整備が伴い税金を投入するわけですが、採算の見通しがあるのでしょうか？まさか60年前のままではないでしょうかね。



漆塗り土器



クルミ塚



第一次調査区全景

デーノタメ遺跡の重要性は文化庁が「国指定史跡」級と認めるほどのものです。それについて、遺跡の調査指導委員会委員長・明治大学教授の阿部芳郎先生のことばを一部ここに掲載します。氏は調査報告書の最後で「デーノタメ遺跡は台地上の大規模な居住域とそれに付随して利用された低地の泥炭層が一体となり良好な状況で残されているきわめて稀有な遺跡である。今や遺跡は住居などの居住域だけではなく周囲の利用空間をも含めた範囲の保存と活用が望まれてきているが、そうした条件を満たす遺跡は極めて少ない。デーノタメ遺跡はその稀有な遺跡の一つと言って良い。これまで関東地方の縄文時代遺跡は生業復元の手がかりの多い海浜部の貝塚遺跡が多く保存されてきたが、デーノタメ遺跡は海浜部には見られない内陸部での豊かな生活の実態を伝えるものであり、東日本の縄文時代を代表する遺跡の一つと考えることができる。」と高い評価をされ、「遺跡の保存と活用を期待」されています。

北本市はこの言葉をどのよう受け止めているのでしょうか？この提言を無にして、道路を通し住宅地に変えるのでしょうか？市民が望んでいるはずがありません。デーノタメ遺跡の存在は、北本市民にとって大きな心の拠り所となるに違いありません。区画整理事業が進行中で難しいと聞きますが、今こそ市の賢明な選択が望まれます。私たち市民は大いに関心をもって見守っています！

参考：北本市教育委員会発行「デーノタメ遺跡」(概要版) 2019 (北本市ホームページより)
写真：北本市教育委員会提供

大村智博士とユリノキ

雑木林にユリノキ植樹

昨年8月、西後保護地区(南小向いの雑木林)に3本のユリノキが植樹されました。ユリノキは、別名はんてん木と言われ半纏のよな形の葉を持つモクレン科の落葉高木です。花はユリというよりはチューリップに似たかわいらしい花でチューリップツリーとも言われています。そんなユリノキがどうして雑木林に植えられることになったのでしょうか。



ユリノキ開花期

ユリノキは小さな苗に引き継がれた次の展開へ

大村博士とこの地のユリノキとのゆかりは30数年前のことです。かつて農事試験場に植えられた数本のユリノキが病院建設時に伐採の危機にあつていたところ、その木にサンコウチョウという珍しい鳥が営巣すると言われており、できるだけ自然に配慮するようにとの大村博士の意向で残される事になったそうです。それが今回「ゆりのき通り」の命名により多くの人の関心を集めることとなりました。そして今ユリノキは、小さな苗木に引き継がれた新たな展開を迎えています。自然を愛しユリノキに思いを寄せた大村博士による命名は私達に「みどり」を引き継ぎ繋ぐ大切さを思い起こさせてくれました。そんなユリノキは昨年内各所に200本植樹されました。また上尾バイパスの北本区間の側道にユリノキ植樹を国土交通省に要望をして植栽の約束を得ているとのこと。「みどり」に囲まれた健康な文化都市を目指す北本にいつの日かユリノキの街路樹がお目見えするのも遠くはないかも知れません。



サンコウチョウ

くぼたあつまさ
久保田篤正さん
(北本市西高尾在住・一級建築士)

北本に建築設計事務所を開いて10年になる久保田さんは、都市計画に精通した建築家・山本浩三(丹下健三門下生)の設計事務所(10年、地元建築会社で10年勤められてから独立されました。都市デザインの実験豊富な久保田さんから見ると、「デーノタメ遺跡はとて重要で魅力的な存在でありこれを街づくりに活かさないことはありえないこと」との思いから、「北本市における街づくりの提言」と遺跡周辺のイメージを描かれていきます。「5000年前の縄文人の生活を伝えるデーノタメ遺跡は、当時から現代に至る日本人の『暮らしの原点』であり、その生活がどのようなもので成り立っていたのか、『暮らしの原点』を知ることは、現代を生きる我々が、今を生きるヒントとなり、自身をそして家族を、地域を見つめ直すきっかけになる」と話され、「縄文人の『暮らしの原点』を伝える残すことは現代の私たちの義務ではないでしょうか。」

遺跡保存を期待する市民の声

久保田さんが描いた下のイメージは、桜並木と雑木林が線となつて遺跡公園とながり、保存された遺跡が町の中に溶け込んでいます。デーノタメ遺跡の未来像の提言に私たちの夢が膨らみます。久保田さんの「街づくり」の提言の詳しくは久保田篤正さんブログをご覧ください。



早春の花

オオイヌノフグリ

(ゴマノハグサ科)

北風が吹く冬の道端。コバルトブルーの可愛い花が青空を見上げてあちこちに咲いています。日本名はオオイヌノフグリ。日本中どこでも見られますが、実は明治時代に西アジアやヨーロッパからやってきた植物。仲間にはタチイヌノフグリもあり、今ではすっかり私たちの風景に馴染んでいます。ちなみに俳句でいうイヌフグリはオオイヌノフグリのことだそう、もともとあったイヌフグリは今では珍しくなっています。こちらはピンク色の小さな花です。山里に出かけたら探してみませんか。気の毒な名前前は実が入った形が犬の陰囊に似ているからです。参考…「野草図鑑7・保育社」



編集メモ

長年活動を共にした吉田さんのお別れ会が昨年10月11日にありました。いつも活動に積極的で穏やかな人柄は誰からも好かれました。一緒に広報誌作りもしました。

昨年デーノタメの森を吉田さんと一緒に歩いたことを思い出します。今号のデーノタメ遺跡公園のスケッチを見たら、きっと喜んでらるなあとと思います。心からご冥福をお祈りします。

コゲラ

雑木林を歩いていて「ギー」という声を聞いたことはありませんか？声がした方をさがすと、木の幹を上向きに登って行く鳥の姿が見られるでしょう。スズメくらいの小さなキツツキ、コゲラです。全国の低地から低山の林で一年を通して生活しています。近年は都市の緑地が見直されてきたので、コゲラは住宅地のすぐ近くでも見ることができるようになりました。頭から背の色は、黒褐色で背と翼には白い横斑があります。オスとメスの色や大きさは同じですが、オスには後頭の両側に赤い羽毛があります。ただ野外では見るのがむずかしいので、写真を撮る人々の間では、この赤色が撮影できると自慢のタネになる程です。コゲラは、つがい直徑300



向って右がオス
左がメス

(500mの広さのなわばりが必要なので、ほかのつがいとのなわばり争いではキツツキキツツキと鳴いて首を振ったり翼を半開きで振るわせたりします。繁殖期には、他のキツツキ同様、枯れた木の梢などを連続的にたたき、タラララとドラミングをすることもあります。コゲラの出すいろいろな声や音に耳を傾けたり、姿を追ったりするの、木の葉が落ちて明るくなった雑木林のこの時期の楽しみになるといいですね。(岡嶋和子)(参考 鳥の図鑑 鳥のおもしろ私生活)

雑木林のログハウス構想

それは5号林と呼んでいる北本南小前の雑木林の奥にそびえ立っています。現在は高さ3メートルとなったログハウスの土台が初めて出現してからかれこれ5年が過ぎようとしています。週に2回、雑木林の会の有志がログハウス建設に集まってきました。ある時ふと立ち寄った時は丸太の皮むきをやっていました。ある時はコーヒーを沸かしてメンバー全員が楽しそうに談笑していました。その亀の歩みのような進捗に、正直誰も完成するとは思っていませんでした。当事者たち以外は……それが今年に入ってまた動き始めました。ログハウスは男の組構法と手作りログ素材の構造計算が困難という2つの壁を乗り越えることができません、一般の木造住宅と同じ構法に姿を変え、基礎工事が始まったのです。いくら好きなこととは言え、このチャレンジ精神とフットワークには呆れそうになったこともありました。今は拍手を送りたいです。この誌面で完成を報告できる日を楽しみにしています。その方々は作業日の日曜日と水曜日の午前中、南小前の雑木林に立ち寄ってみてください。

